

すくらも

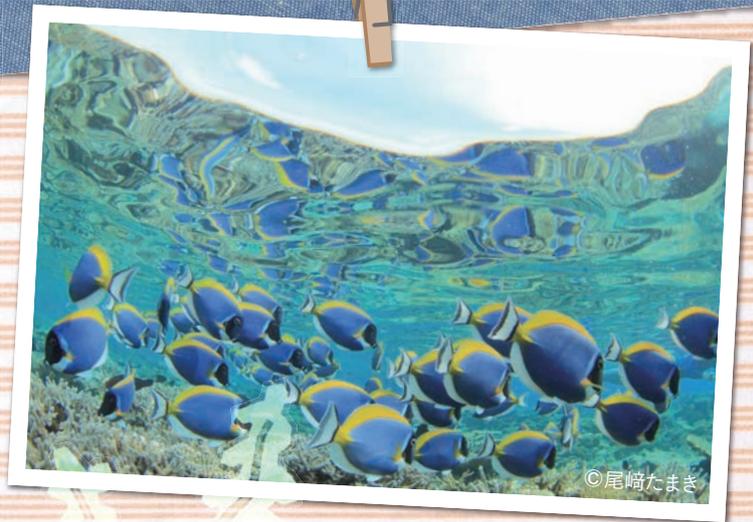
vol.45

2013.08

<http://www.scrum21.or.jp>



©尾崎たまき



©尾崎たまき



6/29 ライブマーケットで参加者と画家が描いたパネル作品



特集

イクメンになりたい!

—仕事だけじゃない!地域でイキイキ過ごす男性たち

インタビュー

水中写真家/フリーランス

尾崎 たまきさん

かわさを舞台にしなやかに、かろやかに、いきいきと活躍されている、魅力あふれる方を紹介します。

人間に身近な動物に目を向けたい

水中写真家／フリーランス

尾崎 たまき さん

水俣や三陸の海、殺処分ゼロを目指す熊本市動物愛護センターの取組みなど、自然と人間にまつわる主題の作品を撮影するとともに、多くの本や雑誌に掲載される素材写真も手がける、尾崎たまきさん。まだ数少ない女性の水中写真家のおひとり、著作活動、写真展、講演、メディア出演など多方面で活動している尾崎さんは、フリーランスとして独立してまだ2年ほど。今後のますますの活躍に目が離せません。

水俣の海の命の育み

熊本に住んでいた1995年から水俣の海に潜り始め、今でも定期的に通って潜っています。水俣での撮影では、口内保育——孵化するまで口の中で卵

を育てる——をしているクロイシモチという魚がいるんですけれども、その魚を岩と岩のあいだに見つけたときのことが印象深いですね。卵を持っている瞬間だったり、交尾をしたり、捕食をしたりという瞬間はなかなか人間には見せない貴重な場面なのですが、その現場をみられて、水俣でも毎年こういう営みが繰り返され、子孫を残しているんだと、すごくうれしくて興奮しました。

撮影に行くときには、そこにしかない生物もいるので、これが撮りたいというときもあります。ジンベイザメやマンタは一般の人にも人気がありますが、ダイバーの人たちにも人気で、それを目当てに例えばモルディブなどに行くのですが、マンタが砂地の浅い

ところでプランクトンを食べに何匹も泳いでいたんです。砂地だと反射を受けて明るくマンタの大きな体に波の模様が入ってキラキラとしていたり、とてもきれいで、シュノーケルで泳ぎながら撮影をしていてとても気持ちよかったですね。

魚の世界にお邪魔する

水俣の写真撮るようになったのは、社会問題を意識していたわけではなく、はじめは好奇心からなんです。私が小学生の頃に父がダイビングをやっていて、一緒についていくと、父はタンクを背負ってブクブクと潜って行って、ずっと上がってこない。私はビーチで1時間近く待たされたのですが、待っているあいだ、海の中にはどんな景色が広がっているんだろう、自分も覗いてみたいと思っていました。

自分で最初に海に潜ったのは、2月の寒い日、風も強くて天候もあまりよくなく、海中の透明度は目の前すらよく見えないという状況だったんです。ですが、寒かったという記憶よりも、目の前をベラなどの魚が泳いでいて、“魚の世界にお邪魔した”という感じがとても心地よく、それでやみつきになってしまったんです。



公式サイト <http://www.ozakitamaki.com/>

vol.6

感動を伝えたいという思い

写真家になる前も休みの日にはもぐりに行って、海のことに関わりたかったのですが、ダイビングのインストラクターなどになることは自信がなかったんです。単純にこの感動を伝えたいという思いがあった。そんなとき、熊本で入っていたダイビングショップのメンバーの方が、一緒に海に行ったときに撮った水中写真を見せてくださったんです。

写真でそのときの感動を残せるってなんだかとても素敵だなと思いました。写真があれば、言葉で伝わらないことも、きちんと伝わりますよね。魚の名前も図鑑を見ながら覚えたりしていましたが、言葉で説明できなくても、この魚だったかな…といううろ覚えなものも、写真を一枚見せれば一目瞭然で、写真っていいなと思ったんです。

「こんなの捨てしまえ」

当初からネイチャーカメラマンになりたいというのが夢だったのですが、最初はスタジオに8年くらい勤めていました。オーストラリアに2ヶ月間くらい行く機会があり、風景だったり動物だったり、たくさん撮り溜めて帰ってきたのですが、見返してみるとまだまだだなど感じて、原点に戻って水中写真を勉強しようと思ったんです。ですが、当事住んでいた熊本には水中写真を教えてくださる方はいらっしゃらなくて、中途半端に教えてもらうよりも、心から尊敬できる先生のところから勉強したいと思い、その後弟子入りした師匠（中村征夫氏）のところにおしかけました（笑）。おしかけていったときに、熊本から持っていった水俣の海を撮影したフィルムがあって見てもらったら、けちゅんけちゅんに言われたんです。「こんなの捨てしまえ、一からやり直せ」って。それまでそんなふうに使われたこともなくて

すごく悔しかったんですけど、やっぱりこの人のところで働きたいと思いました。

人間に身近な動物に目を向ける

水中だけでなく陸上の動物の写真も撮ってしまっていて、「殺処分ゼロ」を目指した取組みをしている熊本市の動物愛護センターにも通っています。

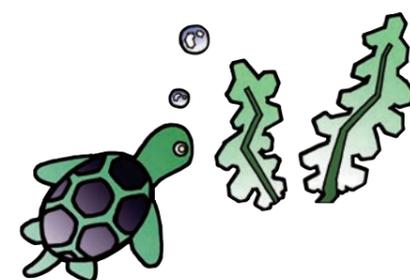
野生動物にも興味はありますが、これからも人間に身近な動物にもきちんと目を向けていきたいと思っています。犬や猫などのように、野生として暮らしていくことが困難な仕組みの日本では、人間が誠意を持って向き合えなければ、私たちの勝手な都合で処分されてしまうのが現状です。「無駄に消されてしまう命を少しでも減らしたい。」そう考えていたら、身近な動物たちを撮影していました。現状の写真を撮って皆さんに見ていただくことが、写真家として自分にできることだと思いつけています。

子どもの頃から動物が大好きで、犬や猫だけでなくウサギやカメラやインコなど、常に動物たちに囲まれていました。小学生の頃は、動物園で働いてみたいという夢もあったくらいでした。

伝統漁法継承者の取材もしたい

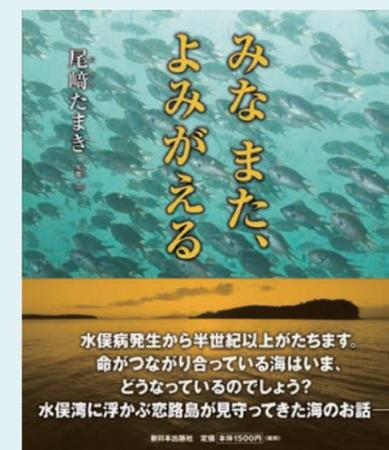
陸上の写真家は女性も多いですが、水中写真家は男性に比べると女性が少なく、知っている方では私のほかに2、3人しか思い浮かばないですね。水中写真だと、機材もカメラ、タンク、^{もり}銛とかを身に着けると30kgくらいになります。それで移動するのは結構体力的にも大変ですし、身体も冷えるので、そういうところに関係しているかもしれませんね。他にも、ロケ先によってはトイレがないところもあるので、女性にとってみたらやりにくい部分もあります。私自身はあまり気にせず乗り切ってます（笑）。

いまま熊本や三陸のほうで撮影をさせていただいているのですが、今後は継承する人が少なくなっている伝統漁法の取材も、進めていきたいと思っています。



『みな また、よみがえる』

写真・文：尾崎たまき / 2013年8月発行 / 新日本出版社 / 1,500円(税別)



ライフワークとして取り組む「水俣」をテーマにした写真絵本『みな また、よみがえる』を出版。公害の原点と言われる「水俣病の海」は、何十年もかけて、元気を取り戻そうとしています。子どもたちに、本当の水俣を知ってほしい。今の水俣の姿を伝えたい。無人島「恋路島」を語り部に見立てて「水俣の海」への思いを綴りました。

(尾崎たまき)

イクメンになりたい!

—仕事だけじゃない!地域でイキイキ過ごす男性たち



松田 肇さん(60代/麻生区)
イクメン暦6年の中堅。料理教室・寄席ボランティア・市民公募委員など多方面で活動中。

箭内 志郎さん(70代/中原区)
イクメン暦15年のベテラン。川崎市認知症ネットワークや認知症の方向けに活動する劇団SOSなど介護分野で活動。

【ファシリテーター】
川島 高之さん(40代/幸区)
商社社長をしながらNPO法人コデカラ・ニッポン代表を務める。子育て、教育分野で活動を展開。

林 俊行さん(60代/高津区)
イクメン暦2年の新人(?)。NPO法人高津総合型スポーツクラブSELFの広報担当として活動。

どんな人でも、何歳になっても生き生きと暮らしている。それは男女共同参画社会が目指す姿でもあります。

退職後もホームグラウンドである地域の場で生き生きと過ごしているシニア男性たちは、どんなきっかけで地域に関わるようになったのでしょうか。そして、その活動はどのように広がり、どんな魅力があるのか。料理、スポーツ、介護など多方面で活躍されている現役の先輩イクメンの方々の経験談には、そのヒントがたくさん詰まっています。

あの頃、わたしもこうだった



松田さん▶▶

50才になるちょっと前に単身赴任をしまして、それまでは周りに家族がいたわけですけど、家族がなくて寄る辺がないという状況に自分でがく然としてしまいました。それから、定年になり空いた時間ができて気づいたのですが、びっくりするほど近所で挨拶できる人たちがいない。もしかして図書館でずっと毎日過ごすとか、スーパーの地下1階の食品売り場の隅っこに座って1日を過ごすといった、そのような姿が見えてきて、これじゃちょっといかなんと思ったんです。

箭内さん▶▶

僕は仕事で合わせて10回くらい転勤とか引っ越しをしました。全部、家族がついてきたんですけど、妻と子ども達は、もうその日からコミュニティにすっと入っていくんです。ちゃんと。我々は会社という「逃げ」があるものですから入れないんですよね。だから、私もPTAでもなんでも全部妻に任せっきりで、ほとんどそういうところに行ったことなかったですね。

定年退職になったら遊び三昧できるなって思っていたのですが、そうなった時には逆に出来ないし、独りで遊んでも面白くない。やっぱり忙しい中をかくぐって遊んではじめて面白いんですよね。

林さん▶▶

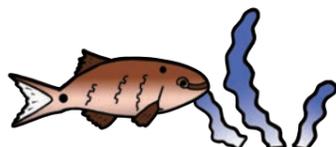
定年プラス1年を会社人間で過ごしていて、会社を辞めてから2ヶ月ほどフラフラとしていました。

それまでは、マンションの役員を断りきれず引き受けたくらいで、できることなら地域とは関わりたくないという気持ちでした。

でも50代半ばには、地球環境保全やまちおこし等の簡単な論文を書き、仕事以外の自分探しもやってみたのですが、ダメと言われるとそこで終わってしまいました。今振り返ってみると、やっぱりそこから一歩踏み出すことが重要なんだと思いますね。

林さんの妻・由美子さんは、どう感じていますか?▶▶

退職前はいわゆる日本の企業戦士で「俺は、日本の企業の中で、ずっと営業で頑張ってきたんだから、俺に任せれば、ある程度のことは出来るんだ」というような自負があったように思うんです。今は、50代半ばに思い描いていた退職後の人生とは違っていると思うんですが、誰かが喜んでくれるという新しい仕事に誇りをもって、以前とは何かちょっと違った人生観を描いているのではないかなと見えています。



地域への入り方、わたしはこうだった

松田さん▶▶

単身赴任のときの男だけの料理教室が最初なんですが、翌年単身赴任が明けて東京に戻ってきたら、待ち構えるかのように妻が「市民館の4日間コースの料理教室申し込んでおいたから」と。否も応もない(笑)。あとは、会社を辞めて第一線を退き半分以上時間ができて2、3ヶ月と家にいると、当然ながら(妻にとっては)鬱陶しい存在になってくるわけです。それで「あなた昔、ちょっと勉強したいなんて言ってたわよね?」と言われて申し込んだ、専修大学と川崎市とで開催していた社会教育プログラム(KSコミュニティ・ビジネス・アカデミー[現・KSソーシャル・ビジネスアカデミー])。この2つの柱から活動の裾野が徐々に広がってきました。

箭内さん▶▶

僕は年金生活に入って何かやらなきゃと思ったのが、介護保険制度の導入と同時期で、僕も将来、同じく歳をとるなら同じ年代の人たちと一緒に何かできることをやろうと思って、介護に関わることに首をつっこみました。ボランティア活動にどっぷり浸かるつもりはなかったのですが、結果的にボランティア活動にどんどんのめりこんでいて、今では7~8割はボランティア生活ですね。このボランティアに首を突っ込んだ時には、ちょっときっかけが欲しいなと思って、わざわざ自分の乗用車を

ワゴン車に切り替えました。8人乗りのボックスカーで、どこのボランティアに行っても移送だけは僕がやりましょうと言ってやっていました。

林さん▶▶

会社を辞めて2ヶ月ほどフラフラしていた時に、妻が背中を押してくれまして「フラフラしているんだったら還暦野球をやっている人を知ってるから好きな野球でもやったら」と、今お世話になっているNPO法人(高津総合型スポーツクラブSELF)の平口会長に引き合わせてくれたんです。実は地域に貢献しているとか、関わっているといった意識はあまりなくて、平口会長から「こういう仕事やってみない?」といわれて「ありがとうございます~」ってやっているのが今の仕事なんです。そんなわけで会長には足を向けて寝ていません。感謝でいっぱいです。

川島さんのココがポイント



1 妻に背中を押されたら、堂々と押されよう!

妻と戦ったりせず、気がついたらいつの間にか暖簾をくぐっていたということでもよい。妻のきっかけ作りに無駄な抵抗はしない。

2 カジュアルに、気軽に、出来るところから!

入れないんじゃないか...、資格がないから出来ないんじゃないか...、といったハードルを自分で作らない。そのためにも、プライドに固執せず、今の自分をさらけ出しましょう。

すくらむこらむ 公園太極拳との出会い

私の一日は、早朝の公園に出かけることから始まります。10年ほど前から自宅近くの公園をジョキングするのが朝の習慣でした。朝の公園には、散歩や体操をする人との出会いがあり、次第に顔なじみになると、「頑張っていますね」「気持ちがいいですね」などと声をかけあうようになりました。●そんな出会いから太極拳の集まりに誘われ、4年前から、出勤前に毎朝50分間、公園での太極拳に参加し始めました。なかなか覚えられず、何度となく辞めようかと思いきじけそうでしたが、同じ時期に参加し始めたGさんや先輩達に支えられ、覚えるまでは、少しずつ少しずつ一步一步時間がかかることを教わりました。●太極拳の練習の心構えは、「あせらず・いばらず・おこらず・おこたらず・くさらず」の5文字をつなげ「あいおおく・愛多く」です。と笑顔で教えてくださった会の代

表のS先生は50人を超す会員の心の拠りどころです。●これまでは、子どもや仕事を通しての地域との関わりがほとんどでしたが、太極拳を通しての仲間との関係は、仕事も家庭も離れた自分であることができるとも新鮮に感じました。やっと、ご近所での顔なじみできたこともあり、地域デビューできうれしさもひとしおでした。●毎日顔をあわせ、一緒に体を動かし、お喋りを楽しみながらの朝のひとときですが、何か最上の気分になれ、休むことがあっても、また、行きたくなる公園仲間の太極拳の集まりです。●これからも長く続けていきたいと思っています。地域の中で人生の先輩たちとの交流は教えられることが多く、自分も太極拳の皆のように歳を重ねられたら良いと思います。公園は、地域の仲間づくりの場です。きっと新たな出会いがあります。皆さんも出掛けてみませんか。

地域のオモシロさ、わたしはこうだった



松田さん▶▶

地域での知り合い、いろいろな人と付き合いがたくさんできて、道であれば挨拶できる。さらには、会社は基本的に元気いっぱいの人ばかりですが、地域ではそうじゃない人達とも話をしていく機会があり、そしてお互いに理解していく。

どうしても頭で考えると自分で出来るだろうと思うけれど、やっぱり現実問題は違う。いろんな形で助け合ったり、提供し合ったり、そしてお互い補い合ったりするチャンスがヤマのようにある。やはり地域活動というのは面白いと思いますね。

箭内さん▶▶

僕自身、人様のために立派なことをやっているわけではなく、誰かとコミュニケーションをとろうと思ったら、やはり何かでつながらなきゃならない。自分の志ではなくても、何かやっているうちに、こっちが面白いな、あっちが面白くなっていうものが必ず出てくる。ですから、まずは地域に出て、人と付き合っ、こんな僕の知らない世界があったんだというのを見て、やってみようかなって言う気持ちになったならば、もうとことん突き進んでみる。これがやっぱり年を取ってからイキイキする方法かな、と思いますね。

林さん▶▶

情報誌（『す的』）を発刊させて頂いて、74あるひとつひとつのスポーツクラブのみなさんのいろんな交流を含めて、今の活動が少しでも良くなれば嬉しいなと思いつつながらNPOの仕事をさせて頂いています。あとは、毎朝1時間弱かけて行うクラブの掃除も、人が来たときに「あ、よく掃除できてるな」って思ってくればそれでいいって思いながら自分なりに一生懸命やっているんですけども、きれいになったと言ってもらえるとやっぱり嬉しいですし、そういうものがやりがいやモチベーションにもなりますよね。

川島さんのココがポイント

1 喜んでもらうことがやりがいに！

自分が居て誰かが喜んでくれ感謝されることは、自分の役割が認められるということといわれますが、退職後あるいは地域の活動でも同じことが言えるのではないのでしょうか。

2 人との関わりが広がる！

会社であれば、ある一定の同じような人でいたいみんな元気ですが、年齢、性別、ハンディキャップの有無を問わず、いろんな方々とお付き合いできる。それは自分を大きく広げる学びの場にもなります。

3 趣味が転じて地域貢献に！

趣味をやるにせよ、どうせやるならひとりではなく誰かとやる。さらに言えば、地域の人とやる、地域の子供達に教える、介護の活動の一環として教えるなどすれば、趣味が地域・社会貢献になりますね。

- ①私が会社を休む
- ②実家の親に手伝いに来てもらう
- ③近所のシッターさんに見てもらおう



今回は①と③で、息子の3日間の病欠を何とか乗り切った。それにしても、②③はなかなか厳しい。実家は京都で遠いし、シッターさんは他にもお仕事をお持ち。「①会社を休む」という選択肢が、もっと誰にとっても取りやすくなるといいのに。今の時代、家庭の持つ事情は多種多様。シングル親、子どもの特性、親の介護…。

これは自分のような当事者が道を切り拓いて変えていくしかないのだろう。なおさら、②③に頼りすぎるのは良くない。会社を休みやすくするように、普段から仕事の進捗を見える化・共有する、メールを課内の人にもC.C.で入れておく、データは必ず共有フォルダに入れる…など気を付けている。あとは普段からしっかり仕事して、会社にとって必要とされる存在になる。よっしゃ、今日も一日がんばるかー！あ、そろそろ息子の弁当を作らないと…(@o@)。

(提供) NAOTO (息子とのいっぱい楽しい日々を綴ったブログ URL はコチラです。⇒ <http://ameblo.jp/036053/>)

特別寄稿 シングルパパの苦悩・・・

「(ピピピッ) …熱が下がってない！ ああ～、どうしよう！！」
この時期、息子はよく熱を出す。週末ゆっくり休んだから月曜には復活…なんてうまく行くはずもなく、月曜朝時点で38.5℃。これじゃあ今日は学校に送り出せない…。こういう時、いつも頭を抱えてしまう。

「さあ、どうしよう(@o@)?」

私は37歳の会社員でシングルパパ歴5年。息子は中1の自閉症男子。環境変化に弱く、学校生活でのストレスから体調を崩すことがある。今回も学校行事で予期しなかったトラブルがあり、相当ストレスを溜めてしまった様子。その翌週、やはり体調を崩してしまった。

もう慣れっことはいえ、体調が悪い息子を見ているとこちらも凹む。本人も不安でこころもとない気持ちだろう。病気の時くらい一緒にいてあげたい。…かと言って会社を何日も休むわけにもいかない。取れる選択肢は3つ。



つながる ふくらむ ふかまる

すくらむ21スタッフがオススメする、本、映画、アートなどを紹介します。

web site

生きるように働く人の仕事探し 『日本仕事百貨』



働く意味は人によって違うけれど、このサイトは「生きるように働く」人のための求人サイト。業種、給与、勤務地で検索してもわからない、でもきっと誰かが探している、そんな仕事取材して紹介しています。求人区分も、地域にねざす/世界をよりよく/場づくりと斬新。さまざまな働き方や、仕事の大変さも含めて働いている人の思いに触れながら仕事を探したい方にオススメです。ここで働きたい!と思えるほど魅力的な仕事に出会えたらステキですよ。

(運営) 株式会社シゴトヒト
[URL] <http://shigoto100.com/>

DVD

『ルルドの泉で』



(販売元) 角川書店
(発売元) 新日本映画社
4,700円 (税別)

ピレネー山脈の麓にある聖地ルルドには、難病の巡礼者や観光客たちが奇蹟を求めて泉を訪れます。主人公のクリスティーヌも、不治の病を抱えながらツアーに参加、そこで彼女が体験した奇蹟とは…。クリスティーヌの「なぜ私がこの病気ののですか。立って歩いて暮らしている普通の人々が羨ましい」という質問に、神父は「あなたの言う普通とはなんですか。人は、それぞれであり、幸せもそれぞれです」と答えます。奇蹟とは? 生きる意味とは? 美しい聖地を背景に思いを巡らせてみてはいかがでしょう。

Book

『アリーテ姫の冒険』



ダイアナ・コールス(原作)
ロス・アスキス(原画)

951円 (税別) / 1989年
学陽書房

いろいろあっても最後には自分だけの王子様と出会って結婚する——世の中にはそんなおとぎ話があふれているけれど、アリーテ姫は違います。お姫様が男性の力を借りず、自らの知恵と勇気とやさしさを用いて困難に立ち向かい、しなやかに自分の世界を切り開いていく物語です。世界で最も成功したフェミニスト童話と言われている本書は、30年前にイギリスで生まれ、女性たちに読み継がれてきました。白馬に乗った王子様のお話に飽き飽きしたとき、子どもたちに読んであげてはいかがでしょう? 絵本とDVDもあります。

Book

『部下を定時に帰す仕事術』

—「最短距離」で「成果」を出すリーダーの知恵—



佐々木常夫(著)

900円 (税別) / 2013年
WAVE出版

長男は自閉症、妻は入退院を繰り返すという環境におかれ、毎朝5時半に起きて3人の子どもの朝食と弁当をつくり、妻の看病をしながら会社勤めをする必要に迫られていた筆者。家庭と仕事を両立するために苦闘した日々。仕事も家庭も徹底的にマネジメントしてやりぬいてきたからこそと言える具体的な方法がギュッと詰まっています。部下のワーク・ライフ・バランスを実現するためには、上司のワーク・ライフ・マネジメントの力量が問われる。もちろん、これからリーダーを目指す男女にも、再就職して働こうと準備中の女性にも、オススメの一冊です。



施設関連情報

川崎市男女共同参画センターでは、ご利用者の皆様に、より快適に当施設をご利用いただくために、日々改善の取り組みを行なっております。

1階 ホールホワイエ「パネル」リニューアル

6月29日(土)に開催した、多様性の素晴らしさを体感するイベント「ライブマーケット」で、画家のホンマアキコ氏とともにさまざまな来場者がライブペインティングで作品を描き上げました。



たかつサマーコンサート ～音楽×ワーク・ライフ・バランス～ パネル展示

イベントにあわせて、楽団の市民メンバーがいかに仕事と家庭と趣味のバランスを図り、生活面でどのようなプラス効果があるかをパネル展示で紹介し、多くの来場者にご覧いただきました。



2階 すくらむギャラリー



今までホールホワイエや4F情報提供室で配架しておりました講座のご案内チラシや川崎市・他施設からの情報も、こちらに集約しましたので一括して情報を入手していただくことができます。

※こちらのギャラリーは、市民の皆様による作品展などでご利用いただくことができます。掲示物、掲示内容、ご利用期間等で事前の打ち合わせが必要となります。詳しくは窓口までお問い合わせください。

事業紹介

ホームページ、随時更新中。

トップページの講座・イベント情報や各種お知らせの表示をわかりやすくしました。また、イチ押しの情報にはバナーから特設ページへリンクするなど工夫しています。これからも皆様にとって、よりわかりやすいホームページを目指します。

<http://www.scrum21.or.jp/>



毎月、メルマガ配信しています。

毎月20日前後にメールマガジン『すくらむ21インフォメーション』にて講座・イベント等催しの情報を配信しています。購読料は無料ですので、ご希望の方は、下記申込先へ、件名:「メールマガジン購読申込」としてメールをご送付ください。

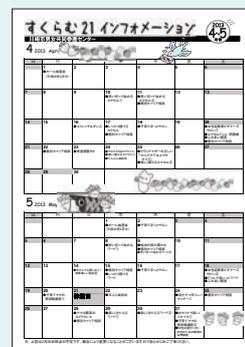
scrum21@scrum21.or.jp



Facebookはじめました。

ホームページでは伝えきれない情報や、募集などのご案内などをお伝えするため、Facebookを立ち上げました。皆さん、ぜひ「いいね!」をお願いします。

<http://www.facebook.com/scrum21kawasaki>



インフォメーションで講座情報をチェック!

2か月分のイベント情報を掲載した「インフォメーション」を毎月配架しています。すくらむ21館内の他、市内の図書館や区役所等、公共施設にも配架しています。